

GRADUATE SCHOOL  
OF

HUMAN

DEVELOPMENT

AND

ENVIRONMENT

神戸大学大学院 人間発達環境学研究科 2020

# WHAT IS HUMAN

## 人の発達とは 人の発達を支える環境とは

人間発達環境学研究科では、人の一生を通じた発達と、その発達を支える環境を対象とした教育研究を行っています。複雑な諸課題を抱く現代社会において、人がどのように潜在的に持つ能力を開花させるのか、そして、そのためにどのような環境が必要なのかについて、原理的、実践的に研究し、人のよりよい生 (well-being) の実現を目指して「知」の構築を行っていきます。

### 研究科の構成

人間発達環境学研究科は、以下の専攻と附属施設で構成されています。

#### 人間発達専攻

##### こころ系講座

心理発達基礎 健康発達

##### 表現系講座

表現創造 表現文化

##### からだ系講座

身体行動 行動発達

##### 学び系講座

教育科学 子ども発達 発達支援

前期課程の特別な履修コース ■ 臨床心理学コース ■ 発達支援1年履修コース

#### 人間環境学専攻

##### 環境基礎論講座

自然環境 数理情報環境

##### 環境形成論講座

生活環境 社会環境

##### 環境先端科学講座

(後期課程の連携講座)

前期課程の特別なサブコース ■ ESDサブコース

#### 発達支援インスティテュート

ヒューマン・コミュニティ創成研究センター

心理教育相談室

サイエンスショップ

教育連携推進室

アクティブエイジング研究センター

# DEVELOPMENT ?



## Contents

研究科の構成	-----	2
沿革と入学者受け入れ方針	-----	4
研究科長からのメッセージ	-----	5
研究科の教育	-----	6
大学院生の研究活動	-----	8
人間発達専攻	-----	10
人間環境学専攻	-----	16
社会貢献・地域貢献(発達支援インスティテュート)	-----	20
国際学術交流	-----	22

# History 沿革



- 1874年10月 兵庫県師範伝習所設置
- 1877年 1月 神戸師範学校と改称
- 1886年 4月 兵庫県尋常師範学校と改称
- 1898年 4月 兵庫県師範学校と改称
- 1900年 2月 姫路に兵庫県第二師範学校を設置
- 1900年 4月 兵庫県師範学校を兵庫県第一師範学校と改称
- 1901年 8月 兵庫県第一師範学校を兵庫県御影師範学校と改称  
兵庫県第二師範学校を兵庫県姫路師範学校と改称
- 1902年 2月 兵庫県明石女子師範学校設置
- 1919年 4月 兵庫県立農学校甲種別科設置
- 1923年 3月 兵庫県立農業補習学校教員養成所として兵庫県立農学校甲種別科が独立
- 1935年 6月 兵庫県立農業補習学校教員養成所を兵庫県立青年学校教員養成所と改称
- 1936年 4月 兵庫県御影師範学校と兵庫県姫路師範学校を兵庫県師範学校として統合
- 1943年 4月 兵庫師範学校として兵庫県師範学校と兵庫県明石女子師範学校を包括し官立移管
- 1944年 4月 兵庫青年師範学校として兵庫県立青年学校教員養成所を官立移管
- 1949年 5月 兵庫師範学校と兵庫青年師範学校を統合し神戸大学教育学部として発足
- 1965年 4月 神戸大学教育専攻科を設置
- 1981年 4月 神戸大学大学院教育学研究科修士課程を設置
- 1992年10月 神戸大学教育学部を改組し、神戸大学発達科学部を設置
- 1997年 4月 神戸大学発達科学部と神戸大学国際文化学部を基礎とした  
神戸大学大学院総合人間科学研究科修士課程を設置
- 1999年 4月 神戸大学大学院総合人間科学研究科博士課程を設置
- 2005年 4月 神戸大学大学院総合人間科学研究科発達支援インスティテュートを設置
- 2007年 4月 神戸大学大学院総合人間科学研究科を改組し、  
神戸大学大学院人間発達環境学研究科を設置
- 2013年 4月 神戸大学大学院人間発達環境学研究科の4専攻(心身発達専攻、教育・学習専攻、  
人間行動専攻、人間表現専攻)を1専攻(人間発達専攻)に改組
- 2017年 4月 神戸大学発達科学部と神戸大学国際文化学部を再編統合し、国際人間科学部を設置

# Admissions Policy 入学者受け入れ方針

## 神戸大学のアドミッション・ポリシー

神戸大学は、世界に開かれた国際都市神戸に立地する大学として、国際的で先端的な研究・教育の拠点になることを目指しています。これまで人類が築いてきた学問を継承するとともに、不断の努力を傾注して新しい知を創造し、人類社会の発展に貢献しようとする次のような学生を求めています。

- 進取の気性に富み、人間と自然を愛する学生
- 旺盛な学習意欲をもち、新しい課題に積極的に取り組もうとする学生
- 常に視野を広め、主体的に考える姿勢をもった学生
- コミュニケーション能力を高め、異なる考え方や文化を尊重する学生

## 人間発達環境学研究科のアドミッション・ポリシー

人間発達環境学研究科は、人間の発達及びそれを取り巻く環境に関わる基礎的並びに応用的・実践的な教育研究活動に主体的に参加し、これを推進する指導的役割を担える高度な専門的能力を有する人材の養成を目指しています。そのため、次のような資質・能力を持った学生を積極的に受け入れます。

- 高度な研究を遂行していくための基礎的な資質・能力
- 人間の発達や環境に関する諸問題に対する鋭敏な感受性と深い専門知識にもとづいて新しい課題を析出していく資質・能力
- 多角的かつ重層的に課題を分析・考察し、体系的に概念化と理論化を行うことができる高度な知的能力
- 現代的諸問題を解決するための具体的方策を提案し、柔軟に対応できる行動力

## 取得可能な学位

### ■ 人間発達専攻

学位: 修士(学術)、修士(教育学)、博士(学術)、博士(教育学)

### ■ 人間環境学専攻

学位: 修士(学術)、修士(理学)、博士(学術)、博士(理学)

# Message from Dean

## 研究科長からのメッセージ

人間発達環境学研究科長

青木 茂樹 教授



近年の科学技術(特に情報通信技術)の発展やグローバル化の進展は、急速に経済・社会のルールを変化させ、人々のライフスタイル、社会と人間の在り方、国家間の相互依存関係などに影響をもたらし、地球規模の様々な課題を顕在化させています。国内を見れば、少子高齢化が加速し、地域経済社会は疲弊しつつあります。このような状況では、人間の発達が阻害される可能性、すなわち一人ひとりの人間が潜在的にもつ多様な能力の発現が妨げられることが危惧されます。

私たちには、「人の発達とは何か」「人の発達を支える環境とは何か」という困難な問いと向き合い、より実践的な観点から具体的な解を導くことによって、より善き生(well-being)の実現をめざした「知」の構築が求められていると思います。

人間発達環境学研究科は、この要請に応えるため、2007年4月に設立されました。本研究科は、「ヒューマン・コミュニティ創成研究」という新たな理念を中核に、人間の発達及びそれを支える環境を対象とした発達科学に関する卓越した教育研究を実施することをミッションにしています。具体的には、人間の潜在的能力が開花するプロセスについて教育研究を行うとともに、人間を取り巻く環境について、人間の潜在的能力を開花させる観点から教育研究を行います。「ヒューマン・コミュニティ創成研究」とは、「人間的な社会(ヒューマン・コミュニティ)の創成をめざして、地域社会、行政、企業、市民などと連携しつつ、人間の発達と発達を支える環境について原理的、実践的に研究する活動の総体」を意味します。

本研究科は人間発達専攻と人間環境学専攻から成っています。人間発達専攻は、教育学、心理学、健康科学、体育・スポーツ科学、社会学、芸術学、工学等々の領域において、「人間の発達」に係る諸事象を「個人の創造的発達」と「個人の創造的発達を促す関係性」という二つの視点から総合的に捉え教育研究を行います。また、人間環境学専攻は、理学、

工学、社会学、経済学、法学、農学、家政学等々の領域において、「人間の発達を支える環境」に係る諸事象を「人間の発達を促進し支援する環境要因の解明と開発」という視点から総合的に捉え教育研究を行います。

本研究科の教育研究活動には、次の3つの特色があります。

第一に、学際的・総合的であるという点です。本研究科では、異なる専門分野間の連携や複数分野での協働をとおして、複雑化・重層化する人間の発達や環境に係る様々な課題に対し、多面的・総合的・包括的な研究を推進しています。

第二に、実践的・応用的であるという点です。本研究科では、現代社会に生起する様々な問題の解決をめざし、関係者と協働しながら有効な解決方法を開発するアクションリサーチの手法を用いた研究を実施しています。特に研究科附属の発達支援インスティテュートでは、「大学と地域とを結ぶプラットフォーム」として、教育・研究・社会貢献を一体的に進めています。

第三に、国際的であるという点です。本研究科では、海外の大学との学術交流を促進するとともに、海外の学生、研究者、実践家等と課題を共有しながら調査研究や学術交流を進めるスタディツアーを積極的に実施し、教育研究の国際化を推進しています。

人間発達環境学研究科は、一人ひとりの人間のwell-beingの実現をめざし、人間の潜在的能力が開花するプロセスやそれに影響を及ぼす環境について教育研究を行う大学院です。今後の未来社会において、well-being が重要な言葉となることは疑う余地はないでしょう。私は、本研究科での教育研究の成果が、期待される未来社会へと導く羅針盤となるものと考えています。

みなさんには、柔軟性と受容性をもちながら、持続的かつ包括的な社会の創成に向けて、私たちとともに、歩んでいただきたいと願っています。

# 研究科の教育



## 教育の特色

### 博士課程 前期課程

人間の発達やそれを取り巻く環境の発展に関わる基礎的あるいは応用的・実践的な教育・研究活動に対し、学生の主体的参加を促し、高度な専門的能力を備えた人材の養成をめざしています。このため、本研究科では、個々の学生が在学中のあらゆる機会を通じて知識、スキル、能力、資質とそれらの自己開発力を獲得できるように、学生の「学び」をトータルにプロデュースし支援する体制をとっています。以下のような特色をもつ、能力開発支援型の教育プログラムを提供します。

### ■ 徹底した基礎的・実践的教育

研究科共通科目「特別研究I」において、文献調査法や資料収集法、フィールドワークやアクションリサーチの技法など、研究の基本的手法を修得し研究能力の基礎を固めます。さらに「特別研究II」において、研究の実際の場面に関わることで、研究遂行のための実際の手法を修得します。

### ■ 個々の学習課題に応える積み上げ方式の専門教育

全般的な専門力量の形成を支援するために、各専攻において専攻共通科目を置いているほか、個々の研究課題に応じたコースワークが可能となるように、基礎科目、展開科目及び関連する専門科目から構成される、積み上げ方式のカリキュラム構成をとっています。

### ■ ヒューマン・コミュニティ創成の マインドを醸成する教育

研究科共通科目「ヒューマンコミュニティ創成研究」において、発達支援インスティテュート(p.20参照)を活用した産学官民協働のフィールド研究活動に積極的に参画し、それらの活動を通して、ヒューマン・コミュニティ創成のマインドを醸成します。

### ■ ソフトスキルや社会人基礎力の育成

研究会、セミナー、修士論文発表会などの教育研究活動において、「参加」「運営」といった役割を担うことにより、コミュニケーション能力、ネゴシエーション能力、企画力、マネジメント能力、チームワーク力、リーダーシップ力といったソフトスキルや社会人基礎力の育成を支援します。

### ■ 持続可能な開発のための教育

「持続可能な開発のための教育(ESD = Education for Sustainable Development) (注)」の理論と実践について学ぶことを目的としたESDサブコースを設置しています。本研究科のすべての学生が、主専攻に加えて選択できるコースです。環境、人権、開発、防災、経済など、多様な課題の解決について、教育の観点から考究し行動することのできる国際人の育成を目指しています。このサブコースの修生には、「ESD Advanced Practitioner」の認証が付与されます。

(注) 地球規模の環境破壊や、エネルギーや水などの資源保全の問題など、人々が現在の生活レベルを維持しつつ、次世代も含むすべての人々により質の高い生活をもたらすことができる社会づくりが重要な課題になっています。これを解決するため、国連で決議された「持続可能な開発のための教育」のことを ESD (Education for Sustainable Development) といいます。



## 博士課程 後期課程

人間の発達やそれを取り巻く環境の発展に関わる原理的あるいは応用的・実践的な教育研究活動に対し、学生の主体的参加を促し、高度な専門的能力だけでなく、独創的で卓越した研究能力を備えた人材の養成をめざしています。そのため、本研究科では、以下の特色をもつ教育プログラムのもとで、学生が、自らの専門を深めるだけでなく、多角的かつ相対的に捉えることにより、自らの専門のアイデンティティを練り上げることができる高度な学問的能力を身につけます。

### ■ 専門力量を深化させる教育

さらなる専門力量の深化をめざした高度化科目（「特論II」）を展開します。

### ■ 実践的研究能力に磨きをかける教育

研究科共通科目「特別研究III」において、文献課題やレビュー論文の作成などを通して、国内外の研究状況を把握するための能力発展をめざします。研究科共通科目「特別研究IV」では、フィールドワークやワークショップ、研究会、プロジェクト研究などの企画・運営に参画し、研究を組織化する方法を修得します。また、国際レベルの論文作成能力を養成します。

### ■ 体系的な博士論文作成指導システムの提供

前期課程、後期課程の計5年間で円滑に博士論文を作成できるようにするため、複数教員による体系的な論文作成指導システム（基礎論文、予備審査論文、公開最終試験）を採用しています。

### ■ 実践的な教育力の開発支援

大学教員をめざす学生に対して、学部の教育実習に相当する科目「教育能力養成演習」を設置し、実践的な教育力の開発を支援します。

# □ 大学院生の研究活動

人間発達環境学研究科の学生は、人間の発達及びそれを取りまく環境に関わるそれぞれの研究課題に取り組みながら、多様な分野の研究者や学生と協働する学際的研究や実践的研究にも深く関わります。学生はこれらの研究活動を通して、現代的諸問題を解決するための具体的方策を提案し、問題に柔軟に対応できる行動力を身につけます。本研究科に在籍する学生の様々な研究活動の例を紹介します。

## ニーズに応える教育の意味とは

呉 文慧 Bunkei Kure

人間発達専攻 ころ系講座 博士課程後期課程2年

私は特別支援教育やインクルーシブ教育において鍵となっている「個々のニーズに応える教育」という言説の意味を考えています。今までは心理学や社会学の観点から、文献研究を中心にこの問題を考えてきました。しかし、そうして考えた理論が現場で本当に機能するのかかわからず、自分の研究に意味があるのか悩んだこともありました。こうした思いから、現在は特別支援学校でフィールドワークを行い、教師が考える子どものニーズと、子ども自身が感じているニーズが相互作用を起し変化していく姿を観察し、自分の理論の検証と新たな理論の生成を試みています。理論と現場、双方の検討を通じて「ニーズに応える」というのは教師と子どもがともに「ニーズを育てていく」ことなのだと思われ力を持って論じられればと思っています。



## 「かわいい」の効能

岡田 真奈 Mana Okada

人間発達専攻 表現系講座 博士課程前期課程2年

精神的な豊かさが求められる現代で、「感性」というものがモノづくりの新しい価値として注目されています。そこで私は、人々に親しまれた形容詞「かわいい」に着目し、人が「かわいい」と思ったものに対してどう行動するのか、また「かわいい」と思ったものを見ることで人とのコミュニケーションはどう変わるのかについて、ビデオ観察で研究しています。今まで複数の学会で発表しましたが、本研究は多くの方の関心を引き、様々な分野の研究者より有意義な助言をいただきました。現在、より大きな場での発表に向け準備しています。研究を通じ得た学際的な視点が、自分の視野を広げてくれることに充実感を覚えています。研究をより面白く有意義なものに出来るよう、更に鋭意努力していきます。

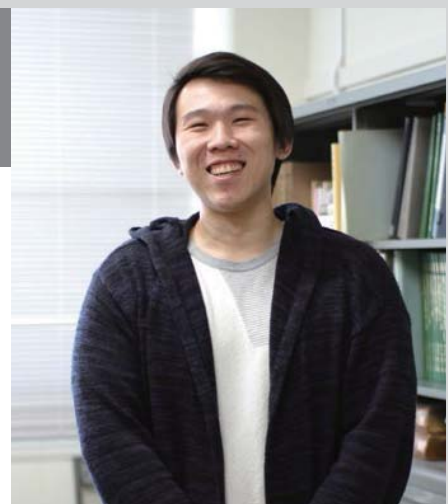


## ゲーマーから選手へ：eスポーツクラブの発展史

任 昱霖 Ren Yu Lin

人間発達専攻 からだ系講座 博士課程前期課程2年

私は、アジア大会やオリンピックにおける競技化が検討されているeスポーツに着目して、中国におけるeスポーツクラブの発展について研究しています。研究の進展と共に、認識可能な世界が広がりました。「世界eスポーツの都」と宣言した上海で調査を行い、eスポーツ研究が専門の大学教授やクラブ運営者と意見を交換しました。またeスポーツ事業を展開する企業での長期インターンシップを通して、人工知能やビッグデータなどの新技術がeスポーツに応用され、発展を促していることを知りました。こうした調査、体験から得られた史料の分析を日々進めています。eスポーツ史研究から得られる好奇心は私の生活に欠かせないものだと感じています。





## 科学技術の社会問題を考える

都倉 さゆり Sayuri Tokura

人間発達専攻 学び系講座 博士課程前期課程2年

私の研究テーマは、「科学技術の社会問題」です。例えば、遺伝子組み換え作物、クローン技術という言葉を知って、みなさんはどのようなイメージを持つでしょうか。科学技術にはメリットもデメリットもあります。そのため、世の中には様々な意見が存在し、対立や議論がまきおこっています。私たちの研究では、人々の意見を考慮して対立の解決策を考え、意志決定する力を育てるための授業開発と評価を行っています。昨年度は、小学校5年生の総合的な学習の時間に、開発した授業を実施していただきました。現在はデータの分析を進めているところです。私の研究は共同研究で、たくさんの人と関わりながら進めており、先生方、先輩、後輩から日々刺激をいただいています。将来は、小学校教員として働きます。



## データの背後にある真の構造を目指して

北川 雄一 Yuichi Kitagawa

人間環境学専攻 数理環境論 博士課程前期課程2年

私の研究分野は数理統計学で、研究テーマは、「情報量規準による確率モデルの同定」です。主に、回帰モデルなどといった数理モデルをデータから構成して評価する研究をしています。情報量規準とは、データからモデルを構成する際に、データに即したギザギザなモデルや緩やかな曲線のモデルの中で、どのモデルが予測に適しているかを客観的に評価できる基準のことです。より優れたモデルの構築のために、情報量規準について研究しようというのが私の研究内容です。学生生活では、ワシントン大学シアトル校へ短期留学しました。この留学経験や、在学中に行った金融や AI などに関する研究を生かして、将来は IT 分野に強いアメリカで Fintech に携われる仕事に就こうと考えています。



## 「七変化」なアジサイの形態を探る

縄井 あゆみ Ayumi Nawai

人間環境学専攻 生活環境論 博士課程前期課程2年

梅雨時期の代表的な植物であるアジサイは六甲山に自生し、「神戸市の花」にも指定されています。私はこのアジサイの資源的価値に着目して、調査研究を始めました。アジサイは別名「七変化」とも呼ばれており、同じ品種でも花の色や形が異なるなど形態は不安定で、未だ名もない不明種があります。このような形態について詳しく把握するため、実際にアジサイ品種の花や葉などの大きさや形、色といった様々な測定や観察を行っているほか、海外の植物標本庫を訪れ、生息地域による形態の多様性も調査しています。多様に变化するアジサイの形態を客観的に明らかにすることで資源的価値の向上を目指し、神戸市らしい地域づくりにも貢献できるようなアジサイの良さを発信していきたいと思えます。



# DEPARTMENT OF HUMAN DEVELOPMENT

## □ 人間発達専攻

### 専攻長 の メッセージ

人間発達専攻長  
稲垣 成哲 教授

人間発達専攻は、多様な側面を持つ人間の発達を、総合的な視点から教育研究の対象とします。前期課程においては、人間の発達に関する実践的諸課題の解決やそれを支える新たな公共の創出に貢献する、高度専門職業人の養成を目的とします。後期課程においては、人間の発達に関する高度な専門的学識及び創造的な研究能力を持つ自立した研究者、又は研究能力に加えて、確かな教育開発力を備えた大学教員の養成を目的とします。さらに、特別な履修コース「臨床心理学コース」と「発達支援1年履修コース」を設置し、実践的職業人も養成します。本専攻では、幅広い問題関心のもとに、こころ系、表現系、からだ系、学び系という各系の方法及び視点の多様性を学習し、自らの専門の新たな位置付けや特徴を修得します。



### 教育の特色

#### POINT 1

##### 「学問領域複合型 人間発達研究」の有効性

人間の発達は、すべての人がもつかけがえのない個性を前提とする概念です。一人ひとりの人間は、様々な潜在能力をその人に固有の道筋で開花させていくのであり、それを人間の発達と呼ぶことができます。本専攻は、一筋縄では捉えられない人間の発達と向き合おうとするとき、関連する学問分野が相互につながり、それぞれに蓄積された学問的知見を有機的に結び付ける「学問領域複合型人間発達研究」こそ、発達の実像の解明に効果的であると考えています。

#### POINT 2

##### 研究課題に応じた 学生自身による コースワークの設定

本専攻は、学生自身が、既存の概念にとらわれることなく、それぞれの問題意識に基づき独自の視点から人間の発達を解明することを期待しています。そのため、心理学、健康科学、体育学、芸術学、教育学等、多岐にわたる専門科目を置き、学生が研究課題に応じてそれらを組合せ、自分自身のコースワークを設定できるようにしています。

#### POINT 3

##### 専攻共通科目の 設置

本専攻には、自由なコースワークを支え、専門性を確保する仕組みが用意されています。「人間発達総合研究 I-1、I-2」や「人間発達研究」などの専攻共通科目が設置され、人間発達研究の視点や研究方法の多様性を学習するとともに、それぞれがとるべき研究上の位置や方向を理解できるようにしています。

#### POINT 4

##### コミュニティ創成に 役立つ人材の養成

本専攻では、包摂する学問領域の広さから、修了生は多彩な進路で活躍することが期待されます。いずれの進路をとるにせよ、人間発達にかかる豊かな知見をもとに、多世代の人々がともに参画できる安全で安心なコミュニティの創成に役立つ人材になることが期待されます。前期課程では、人間発達という視点から21世紀の諸課題に果敢に取り組み新たな公共性の創出に貢献できる高度専門職業人を養成します。また、後期課程では、自らの専門以外の学問領域に広く目配りしながら、コミュニティ創成の研究を主体的に展開できる研究者や大学教員を養成します。

#### POINT 5

##### 先端的研究に協働する 「研究道場」の設置

本専攻では、人間発達研究の特定分野において、特に優れた大学教員・研究者を養成するため、本研究科の教員が共同で先端的研究を進める研究会に学生が参加し協働する体制「研究道場」を整備しています。そこで、学生が実践的な研究力量を身につけ、研究者として早期に自立できる素養を修得するようにします。

## 系講座

### こころ系講座

こころ系講座では、心理学と健康科学を総合した観点から、心身の発達や健康、その促進・阻害要因の探究と複雑な相互関係の把握に努め、広い視野と深い専門性をもって人間発達の様相を追究します。

#### 研究領域

- 心理発達基礎 (発達障害心理学、発達心理学、教育心理学、人格心理学、発達障害臨床学、臨床心理学、カウンセリング、発達臨床心理学)
- 健康発達 (健康科学、健康教育学、健康心理学、環境保健学、公衆衛生学)



### 表現系講座

表現系講座では、人間の感性の発現としての表現活動を教育研究対象とし、実践表現を基盤とした理論構築や、その営みによって生み出された様々な「もの」「こと」に関わる多面的な研究を行います。

#### 研究領域

- 表現創造 (器楽、舞踊学、音楽療法、即興演奏、美術・絵画表現)
- 表現文化 (音楽文化史、民族音楽学、近代建築史、ファッション文化論、感性科学、社会情報学、認知科学)



### からだ系講座

からだ系講座では、日常生活からレジャーやスポーツにわたる幅広い身体活動や人間行動の発達と加齢及び適応現象を教育研究対象とし、人々の発達や社会活動に関わる様々な課題について学際的な観点から研究を行います。

#### 研究領域

- スポーツ科学領域 (体育・スポーツ史、運動生理学、運動・スポーツ心理学、運動処方論、スポーツ技術論、スポーツバイオメカニクス、身体システム学)
- エイジング研究領域 (加齢の認知心理学、社会老年学、ジェロントロジー、応用生理学、レジャー・スポーツ老年学、加齢の身体運動科学)



### 学び系講座

学び系講座では、教育及び学習等に関わる社会的・個人的営為を対象に教育研究を行い、人間の誕生から高齢期にいたるころ及び諸能力の発達や人間形成に関わる諸要因について理論的、実証的に探究します。

#### 研究領域

- 教育科学 (科学教育、社会認識教育、教育方法学、教育制度、教育行政、日本教育史、西洋教育史、教育哲学)
- 子ども発達 (身体発育論、数理認識論、児童文学、美術教育学、発達心理学、家庭関係学、乳幼児教育学)
- 発達支援 (生涯学習論、社会教育論、障害共生支援論、ボランティア学習論、ジェンダー論、自然共生論)



## 履修コース (前期課程のみ)

本専攻では、実践的職業人の養成を目的とする2つの特別な履修コースを設置しています。

### 臨床心理学コース

臨床心理士資格認定試験及び公認心理師試験の受験資格を取得できるコースで、心理臨床の専門職に求められる実践力と研究能力をともに高めます。

### 発達支援1年履修コース

職業人として高い成果を積み重ねてきた社会人を対象とし、発達支援に関する研究分野において1年間で修士号の取得が可能なコースです。本コースでは、実践に即した研究能力を高め、さらに高度に専門的な職業人としての能力を獲得することを目指します。

## 取得可能な資格免許

- 幼稚園教諭専修免許状
- 小学校教諭専修免許状
- 中学校教諭専修免許状 (保健体育、音楽、美術)
- 高等学校教諭専修免許状 (保健体育、音楽、美術)
- 特別支援学校専修免許状
- 臨床心理士試験受験資格<sup>(注1)</sup>
- 公認心理師受験資格<sup>(注1)(注2)</sup>

(注1) 臨床心理学コースのみ

(注2) 学部において必要な科目を履修済みか、または受験資格特例の条件を満たす必要があります

修了後の進路については、  
<http://www.h.kobe-u.ac.jp/ja/stats/career/hde> をご覧ください。  
資格免許の取得状況については、  
<http://www.h.kobe-u.ac.jp/ja/stats/license/hde> をご覧ください。

## □ 人間発達専攻

### こころ系講座

## ■ 心理発達基礎

前期課程では、心理学の専門的知識や技術を持って、心の発達と様相をトータルに研究するための能力と円滑な人間関係をマネジメントできる実践力を養成します。後期課程では、前期課程(臨床心理学コースを含む)での学習・研究を踏まえ、生涯にわたる心の発達について、さらに高度な専門的知識を深めると同時に、解明を求められている研究課題について、多面的・総合的な視点から研究し、成果をあげることできる人材を養成します。

#### 研究分野

相澤 直樹 准教授	臨床心理学、臨床心理検査(投影法)	谷 冬彦 准教授	人格心理学
赤木 和重 准教授	発達障害心理学	鳥居 深雪 教授	発達障害臨床学
伊藤 俊樹 准教授	臨床心理学	林 創 准教授	発達心理学、教育心理学
河崎 佳子 教授	臨床心理学、発達臨床心理学	吉田 圭吾 教授	臨床心理学
齊藤 誠一 准教授	発達心理学	山根 隆宏 准教授	発達臨床心理学、発達障害児家族支援
坂本 美紀 教授	教育心理学		

#### 臨床心理学コース

相澤 直樹 准教授	臨床心理学、臨床心理検査(投影法)	吉田 圭吾 教授	臨床心理学
伊藤 俊樹 准教授	臨床心理学	山根 隆宏 准教授	発達臨床心理学、発達障害児家族支援
河崎 佳子 教授	臨床心理学、発達臨床心理学		

## ■ 健康発達

心身の健康を支える体や心の仕組みとその発達や、様々な環境要因が人の健康や発達に及ぼす影響とそのプロセスについて研究及び教育を行います。さらにその有効性を検証し、広く普及する活動を実施しています。

#### 研究分野

加藤 佳子 教授	健康教育、健康心理学	古谷 真樹 准教授	睡眠心理学、生理心理学、健康心理学
中村 晴信 教授	公衆衛生学、行動医学、生理人類学	村山 留美子 准教授	環境保健学、環境リスク学

## 研究紹介

### 吉田 圭吾 教授

専門：臨床心理学

#### 学校現場におけるスクールカウンセラーの役割

現代の学校現場において、不登校、いじめ、リストカット、暴力、盗みなど、様々な心理-社会的な問題が露呈し、その対応に迫られています。そのような問題に教師やスクールカウンセラーがどのようにアセスメントを行い、心理的支援を行うことができるかについて研究を行っています。フィールドを持った実践的研究は責任も伴いますが、だからこそ意欲が必要であり、やりがいのあるテーマだと思います。言語的カウンセリングのみならず、遊びを通じたプレイセラ皮的介入、子どもが大好きなことを通して関わる「心の窓」理論を用いた介入などを学び研究していくことは、これからの学校現場における支援に取り組む上で、非常に重要なことと考えています。



## 表現系講座

### ■ 表現創造

芸術と生活と人生を新たな視点で統合することを目指し、地域社会において芸術に関わる生涯教育のファシリテーターや指導者の育成、あるいはそれと関係した音楽療法などの実践研究、及びコミュニティアートとしての新しい芸術形態の創造開発を目的とした教育研究を行います。

#### 研究分野

岡崎 香奈 准教授 音楽療法、即興演奏  
岸本 吉弘 教授 絵画表現  
関 典子 准教授 舞踊学、コンテンポラリーダンスの創作と研究

### ■ 表現文化

表現を、人間が意識するかどうかに関わらず生み出してきた文化として捉え、歴史的・社会的に探求します。文献調査や、実験、フィールドワークに実際の表現活動といった様々な研究へのアプローチの中で、表現文化の過去・現在・未来に対する深い認識と柔軟で創造的な構想力を養い、さらに、その認識や構想を他者に向かって分かりやすく説得的に伝えることのできる論理的な表現力を涵養します。

#### 研究分野

梅宮 弘光 教授 近代建築史  
大田 美佐子 准教授 音楽文化史、音楽美学  
小高 直樹\* 教授 感性科学、図形科学  
谷 正人 准教授 音楽民族学  
田畑 暁生 教授 社会情報学、映像論  
野中 哲士 准教授 認知科学、生態心理学  
平芳 裕子 准教授 表象文化論、ファッション文化論

※2020年3月退職予定

## 研究 紹介

### 関 典子 准教授

専門：舞踊学、コンテンポラリーダンスの創作と研究

#### コンテンポラリーダンスの覚悟をもって

私はダンサーとしての実感を伴った研究を志向／試行しています。コンテンポラリーダンスの領域では、単に技術的に優美しく踊ることよりも、その人ならではの個性や思想が重視されることが多くあります。自身の体感や心情＝主観に向き合い、それを客観的に研究として言語化していく。ダンサーと研究者は全く両極端な存在でもあるのです。時には自身を被験者としてダンス理論の解明に挑む、いわばセルフ人体実験のような試みを行い、それは苦しい思いもしますが、舞踊は有限の身体や動きという儂いものを媒体とする芸術です。そして、私は私から逃れることはできません。今、ここにあること、まさしく「コンテンポラリー／con 共有 temporary 瞬間」であることに覚悟を決め、表現と研究をフィードバックしながら探究することを目指しています。



## □ 人間発達専攻

### からだ系講座

## ■ スポーツ科学領域

身体運動のメカニズムや心理的・生理的効果について、運動心理学、身体コンディショニング、スポーツバイオメカニクス、ストレス生理学、身体運動制御論、運動処方論の各面から、また、運動・スポーツの文化・歴史及び振興施策について、スポーツ文化史、生涯スポーツ論の各面から学び、身体行動に関する高度な知識と研究手法を修得します。

#### 研究分野

秋元 忍 准教授	体育・スポーツ史	高田 義弘 准教授	運動生理学(身体コンディショニング)
河辺 章子 教授	運動生理学(身体運動制御/運動学習)	高見 和至 教授	運動・スポーツ心理学
木村 哲也 准教授	身体システム学、応用生理学	前田 正登 教授	スポーツバイオメカニクス、スポーツ工学
佐藤 幸治 准教授	運動生化学、スポーツ医学		

## ■ エイジング研究領域

社会科学及び自然科学の両面から現実の様々な人間行動を多角的に捉えるために老年学(ジェロントロジー)、運動老年学、社会学、応用生理学、身体運動科学、行動適応学などの多分野の研究領域を設け、人間行動の加齢に伴う発達や環境への適応に関わる課題を学際的観点からアプローチできる人材を養成します。

#### 研究分野

岡田 修一 教授	加齢の身体運動科学	長ヶ原 誠 教授	生涯スポーツ振興論、レジャー・スポーツ老年学
片桐 恵子 教授	社会心理学、社会老年学	原田 和弘 准教授	老年行動学、健康スポーツ論
近藤 徳彦 教授	応用生理学、環境生理学、運動生理学	増本 康平 准教授	高齢者心理学、実験心理学、認知心理学

## 研究 紹介

### 原田 和弘 准教授

専門：老年行動学、健康スポーツ論

#### 高齢者の運動習慣の形成について研究しています

健康長寿の実現には、運動習慣を持つことが大切です。しかし、「継続は力なり」とは言いますが、運動は、つい「三日坊主」になりがちな行動の代表格です。運動習慣の形成には、本人の気持ちや考えだけでなく、周りの運動環境や、人間関係、遺伝的要素など様々な要因が複雑に影響していると考えられているものの、現段階ではまだ、よくわかっていないことが多いのが現状です。そこで、私の研究室では、心理学や地理情報学、遺伝学など様々な領域の手法を取り入れながら、高齢者の運動習慣がどのように作られるのかについて研究しています。高齢者の運動習慣の形成は、豊かな高齢社会づくりに貢献する、社会的意義のある研究テーマだと考えています。



## 学び系講座

### 教育科学

今日の社会が直面する様々な教育課題への対応を念頭におき、高度な専門知識や技術をあわせもつ教育現場のリーダーとして貢献できる人材(研究者、教員、教育行政職等)を養成します。

#### 研究分野

稲垣 成哲 教授	科学教育	山口 悦司 准教授	科学教育
奥山 和子 講師	日本語教育、年少者日本語教育、留学生教育、異文化間教育	山下 晃一 准教授	教育制度論
川地 亜弥子 准教授	教育方法学	吉永 潤 教授	社会認識教育論
船寄 俊雄 教授	日本教育史、教育学	渡部 昭男* 教授	教育行政学(地域教育学、特別ニーズ教育)
		渡邊 隆信 教授	西洋教育史、教育哲学

※2020年3月退職予定

### 子ども発達

乳幼児から青年期の子どもを対象に、心やからだの発達と教育、言語・音楽・造形表現の発達と教育、数理認識発達と教育に関する専門領域を学び、子どもの教育と発達を総合的に研究します。

#### 研究分野

岡部 恭幸 教授	数理認識論、数学教育	勅使河原 君江 准教授	美術教育
北野 幸子 准教授	乳幼児教育学、保育学	中谷 奈津子 准教授	保育学、家族関係学
木下 孝司 教授	発達心理学	長谷川 諒 特命講師	音楽教育学、音楽教育哲学
國土 将平 教授	身体発達、保健体育科教育、健康・スポーツ測定	目黒 強 准教授	児童文学、国語教育

### 発達支援

現代社会における人間形成機能の社会的、教育的な開発支援を研究対象に、アクションリサーチを方法論とする実践的な研究を行います。

#### 研究分野

稲原 美苗 准教授	ジェンダー理論、現象学、臨床哲学	津田 英二 教授	社会教育論、インクルーシヴ社会支援論
清野 未恵子 准教授	自然共生社会、野生動物管理、ESD	松岡 広路 教授	生涯学習論、福祉教育・ボランティア学習論

#### 発達支援1年履修コース

稲原 美苗 准教授	ジェンダー理論、現象学、臨床哲学	津田 英二 教授	社会教育論、インクルーシヴ社会支援論
加藤 佳子 教授	健康教育、健康心理学	松岡 広路 教授	生涯学習論、福祉教育・ボランティア学習論
清野 未恵子 准教授	自然共生社会、野生動物管理、ESD		

## 研究紹介

### 清野 未恵子 准教授

専門：自然共生社会、野生動物管理、ESD

#### 自然と共にある社会のための分野横断的アプローチ

イノシシやシカやニホンザルなどの野生動物が、農地を荒らしたり都市部に進出するなど、動物たちと人間社会の間の様々なトラブル(獣害)が社会問題となっています。そうした問題を解決するには、野生動物の都市化・悪質化の生態解明と、地域の方々の野生動物との適切な関係性構築の両面から、研究・実践する必要があります。私は、ニホンザルを軸としており、兵庫県篠山市を主なフィールドとしながら、ニホンザルの生態調査をしながら、農家の方々や、行政職員、小学校や学童保育など、多様な世代も対象に、調査研究を行い、「自然と共にある暮らし・社会を探究しています。さらに、こうした問題を“持続可能な開発のための教育(ESD)”の視座で、他国事例とも比較しながら研究を進めています。



# DEPARTMENT OF HUMAN ENVIRONMENTAL SCIENCE

## □ 人間環境学専攻

### 専攻長 の メッセージ

人間環境学専攻長  
近江戸 伸子 教授

人間環境学専攻は、人間の発達を促し、支え、助けるために、どのような環境を、どのように形成し、維持すればよいのか、という問いを立て、その解明に取り組んでいます。この課題に立ち向かうには、多様な分野からのアプローチが必要です。このため、本専攻では、自然環境、数理情報環境、生活環境、社会環境という各分野の専門知識をもとに、この課題に取り組みます。前期課程が目的とするのは、豊富な専門知識とそれを応用する能力、そして実践行動力を有し、政府、自治体、民間企業、NPOなどの多様な領域で人間環境のいっそうの改善のために活躍できる人材の育成です。後期課程は、人間環境に関する高度な専門学識と創造的な研究能力を備える自立した研究者、または研究能力に加えて実践的な教育開発能力をもつ大学教員などの養成を目的としています。さらに後期課程においては、より幅広く環境問題にアプローチするため、学外研究機関の研究者で構成される環境先端科学講座を設置しています。



### 教育の特色

#### POINT 1

##### 専門性を高める4つの履修コースと学際的研究を支援する教育体制

本専攻がテーマとする「人間の発達を促し、支え、助けるための環境」を解明するには、多様な分野からのアプローチが必要です。そのため、人間環境学専攻では、人間環境としての自然を対象とし、その成り立ちを明らかにしようとする「自然環境」、数理科学を基礎にして情報環境を研究対象とする「数理情報環境」、日常生活の分析・理解から環境のあり方を追求する「生活環境」、人間を取り巻く社会的な環境の諸矛盾の克服を目指す「社会環境」という4つの履修コース（前期課程）と教育研究分野（後期課程）を設置しています。また、所属する履修コースや教育研究分野以外の授業の履修を可能とし、学生が研究課題に応じて、特定の分野の範囲内にとどまらずに、自身のコースワークを設定できるようにしています。

#### POINT 2

##### 専攻共通科目の設置

本専攻には、自由なコースワークを支え、専門性を担保する仕組みが用意されています。まず、専攻共通科目である「人間環境学相関研究1、2」を設置することで、人間環境学に関する研究の視点や方法の幅の広さを学ぶ機会を提供し、その多様性のなかで、学生それぞれがとるべき研究上の位置や方向を検討できるようにしています。

#### POINT 3

##### 豊富な専門知識をベースとした多彩で実践的に行動できる人材の養成

本専攻の修了生は、人間環境に関わる豊富な専門知識とそれを応用する能力をもとに、実践的に行動する力を有し、多様な進路で活躍することを期待されます。前期課程では、人間環境の改善のため、政府、自治体、民間企業、NPOなど、多様な分野で活躍できる人材を養成します。後期課程では、人間環境に関する高度な専門学識と創造的な研究能力を備える自立した研究者、研究能力に加えて実践的な教育開発能力をもつ大学教員などを養成します。



## 教育研究分野

### 自然環境

自然環境分野では、自然環境に関わる物質、生命、地球表層から宇宙にいたる幅広い事柄について、環境汚染、気候変動、生物多様性などの人間生活と密接に係る環境問題に関して考究します。

#### 研究領域

- 素粒子物理学、宇宙物理学、惑星環境物理学、環境地質学、分子生物学、生物有機化学、高分子化学、光合成酵素科学、進化生態学、植物生態学、水域生態学



### 数理情報環境

数理情報環境分野では、数理科学に対する高い専門性をもとに、多様化・高度化した情報環境について解析し、情報環境に関わる諸問題を解決するため、高度な数理的理論と手法について研究します。

#### 研究領域

- 計算機代数、応用解析学、トポロジー、数理統計学、応用統計学



### 生活環境

生活環境分野では、私たちの生活環境を形成する生活空間、生活技術、生活資源の3領域において、加速度的に変化し続け、複雑化する諸問題を、社会科学、人文科学、自然科学の方面から考究します。

#### 研究領域

- 衣環境学、感性工学、緑地環境学、環境バイオテクノロジー、環境経済学、食環境学、環境システム工学、生活空間計画、ヒューマンエレクトロニクス



### 社会環境

社会環境分野では、経済学、政治学、歴史学、地理学、法学、社会学など従来の社会科学の研究成果を駆使できる基本的な能力とともに、人間が発達する環境としての社会のあり方を探求します。

#### 研究領域

- 社会文化環境論、社会保障、社会政策、途上国政治経済、社会規範論、人文地理学、地域社会論、社会思想、移民社会論



### 環境先端科学（後期課程の連携講座）

体系的教育を行う大学院と環境科学の先端的研究を推進する中核的研究機関の連携を通じて、次代の環境科学について探求します。

#### 研究領域

- 大気化学、炭素循環、生物地球化学、マイクロ流体工学、環境分析化学、ナノバイオ計測工学



## 取得可能な資格免許

- 中学校教諭専修免許状(理科、数学、家庭、社会)
- 高等学校教諭専修免許状(理科、数学、家庭、公民)

修了後の進路については、<http://www.h.kobe-u.ac.jp/ja/stats/career/hes> をご覧ください。

資格免許の取得状況については、<http://www.h.kobe-u.ac.jp/ja/stats/license/hes> をご覧ください。

## □ 人間環境学専攻

### 教育研究分野

## ■ 自然環境

自然環境分野では、自然環境の成り立ちや、環境と人間の相互作用に関する基礎的研究を行う能力を有し、自然科学的立場から人間環境の具体的な諸課題の解決を目指す人材を養成します。そのために、自然環境に関わる物質、生命、地球表層から宇宙にいたるまでの幅広い事柄について、基礎的な理解を深めるとともに、環境汚染、気候変動、生物多様性などの人間生活と密接に関係する環境問題に関して深く考究します。

#### 研究分野

青木 茂樹 教授 素粒子・宇宙線物理学  
蘆田 弘樹 准教授 光合成酵素、代謝制御学  
伊藤 真之 教授 宇宙物理学、科学教育  
丑丸 敦史 教授 植物生態学、生物多様性科学  
江原 靖人 准教授 生物有機化学

大串 健一 教授 地球環境学、地球化学、地質学、古生物学  
佐藤 春実 教授 高分子化学、物理化学  
高見 泰興 准教授 進化生態学  
谷 篤史 准教授 惑星環境物理学  
源 利文 准教授 水域生態学、環境生理学

## ■ 環境先端科学（後期課程の連携講座）

体系的教育を行う大学院と環境科学の先端的研究を推進する中核的研究機関の連携を通じて、次代の環境科学を担う人材を養成します。

#### 研究分野

斉藤 拓也 准教授 大気化学、生物地球化学  
遠嶋 康德 教授 大気化学、炭素循環

永井 秀典 准教授 マイクロ流体工学  
脇田 慎一 教授 環境分析化学、ナノバイオ計測工学

## ■ 数理情報環境

数理情報環境分野では、数理学に対する高い専門性を身に付け、情報環境の多様化・高度化に対応して情報に関わる諸問題に有効な解決策を提供することのできる人材を養成します。そのために、伝統的な数学に根ざしてはいるが、特に情報環境に関わる諸側面の解明に有効と思われる数理学の諸分野を重視した授業科目を通して、複雑に入り組んだ情報環境に対処するための高度な数理的理論と手法を身につけます。

#### 研究分野

稲葉 太一 准教授 数理統計学、応用統計学、データ解析  
桑村 雅隆 教授 応用解析学  
阪本 雄二 准教授 数理統計学

高橋 真\* 教授 情報論理学  
長坂 耕作 准教授 計算機代数  
宮田 任寿 教授 幾何学的トポロジー

※2020年3月退職予定

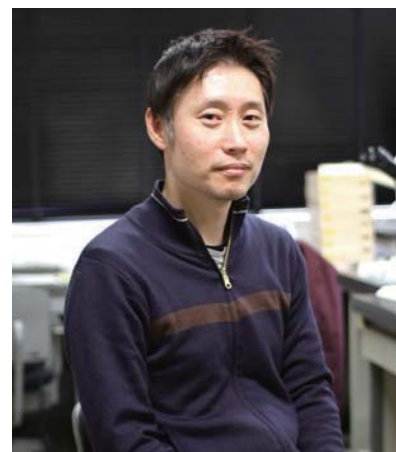
## 研究 紹介

### 高見 泰興 准教授

専門：進化生態学

#### 生物の進化と多様化を性の視点から明らかにする

自然界にはオスとメスの間の様々な関係があります。オスとメスが協力して繁殖するものもいれば、配偶相手を探せばかりで、子育てを相手に押し付けるオスやメスもいます。このような関係は、オス同士やメス同士の競争、あるいはオスとメスの間の対立をもたらし、繁殖行動の進化を引き起こします。繁殖行動がさまざまに進化すると、互いに交配できない新しい種が生まれることがあります。オスの利己的な行動がメスに負担をかけ、少子化し、集団が絶滅に向かうこともあります。このような性に関わる生物の進化・多様化の仕組みを調べるため、主に昆虫を対象に、野外調査、行動観察、DNA解析など、様々な技術を組み合わせて研究しています。



## 生活環境

現代は「流動化」の時代などと呼ばれます。いかえれば現代とは加速度的に変化し続ける時代でもあります。そこでは日常の生活さえ刻々と姿を変えており、日々新たな課題が生じています。そこで生活環境分野では、私たちの生活環境を形成する生活空間、生活技術、生活資源の3領域について、社会科学、人文科学、自然科学と、文系・理系の両方にわたる研究手法を駆使して、今日的な課題を取り上げ、分析し、問題解決する能力を養成します。

### 研究分野

井上 真理 教授 衣環境学、感性工学  
大野 朋子 准教授 緑地環境学、造園学  
近江戸 伸子 教授 環境バイオテクノロジー  
佐藤 真行 准教授 環境経済学、環境政策論

白杉 直子 教授 食環境学  
田畑 智博 准教授 環境システム工学  
平山 洋介 教授 住宅・都市計画  
福田 博也 准教授 生体電子計測、ヒューマンエレクトロニクス

## 社会環境

現代社会の諸課題を解明するには、既存の社会諸科学の成果だけでは不十分です。現代社会のあるべき方向を模索するためには、一人ひとりの人間の発達を基軸にすえながら、世界規模で進む歴史的な変動のダイナミズムを明らかにするための新しい科学が求められています。そこで社会環境分野では、経済学、政治学、歴史学、地理学、法学など従来の社会科学の研究成果を駆使できる基本的な能力とともに、人間が発達する環境としての社会のあり方を探求できる実践的な構想力を育成します。

### 研究分野

浅野 慎一 教授 社会文化環境論、社会学  
井口 克郎 准教授 社会保障、福祉国家、災害被災者の生活問題  
岩佐 卓也 准教授 社会政策

太田 和宏 教授 途上国政治経済  
澤 宗則 教授 人文地理学、地域社会論  
橋本 直人 准教授 社会思想、社会学史

## 研究 紹介

### 太田 和宏 教授

専門：途上国政治経済

#### 途上国社会構造を多角的に分析する

途上国の社会実態、政治構造等をフィリピンに焦点をあてて研究をしています。生活者の視点から社会制度やシステム、構造の分析に取り組んでいます。例えば貧困問題は単に物が足りない、分配がうまくいかないというだけでなく、それらを生み出す社会構造や貧困概念の背景にある社会的イデオロギーがかかわっています。一つの課題を解き明かすには多角的な視点と分析が必要です。現在は伝統的社会制度を保持しつつグローバル自由化を進める途上国で人々の労働環境がいかに変化しているのかについて調査研究をしています。事実を拾い上げそれをどの様に解釈し理解するのかという知的営為は苦しくもあり楽しいものです。そんな知的作業と一緒に取り組んでみませんか。



# □ 社会貢献・地域貢献

## 大学と社会をつなぐプラットフォーム「発達支援インスティテュート」

人間発達環境学研究科の附属研究施設である発達支援インスティテュートは、「人間発達に関する教育研究、実践的研究を行うとともに、地域との連携を進め、多層・多元的なコミュニティの創成及び社会貢献に資すること」を目的とし、本研究科が対象とする現代の問題に即してこの目的を実現するため、以下の5つのユニットから構成されています。

### ヒューマン・コミュニティ創成研究センター

詳細は、<http://www.h.kobe-u.ac.jp/ja/hc-center>

ヒューマン・コミュニティ創成研究センターでは、本研究科で蓄積されてきた研究成果と、地域社会の実践活動とを融合させながら、現場に即した実践的研究活動を行っています。地域組織、NPO、NGO、企業、行政、学校等の人々と連携しながら、研究・実践を深め、人間らしさにあふれたコミュニティの創成を目指しています。



#### 活動例

##### ■ ESD (持続可能な開発のための教育) ネットワーク支援プロジェクト

ESDに関心をもつ地域社会の団体・組織のネットワーク化を促進します。北東日本大震災の被災地の支援活動やハンセン病療養所邑久光明園の協力のもとで「持続可能な島づくりプロジェクト」等を実施しています。

##### ■ 障害共生支援プロジェクト

「のびやかスペース あーち」や「アゴラ」などの学内施設をフィールドとし、障害のある人々を排除しないインクルーシブな社会づくりに関わる実践・研究・教育を行っています。

##### ■ 女性・子ども支援する哲学カフェプログラム

主に日常生活で抱えているジェンダー問題をテーマに、WACCA (女性・シングルマザーとその子どもの居場所と仲間作りの場) の支援者向けの哲学カフェを開催しています。

##### ■ 農村部における自然共生社会の探求

人と動物たちが共生できる社会を目指して、野生動物管理という生態学的な観点と、私たちの暮らし方を見直すという社会教育的な観点の両面から、研究と実践を行っています。

### 心理教育相談室

詳細は、<http://www.h.kobe-u.ac.jp/ja/psycli>

心理教育相談室は、地域住民を対象とする心理相談機関と臨床心理士養成に関わる実習機関をかねて、これまで活発な相談援助活動を実施してきました。臨床心理学コース (前期課程) の大学院生が臨床心理士の資格を持つ本研究科教員による指導のもと、継続的な心理相談活動に従事しています。



#### 活動例

##### ■ 臨床心理面接・プレイセラピー

心理教育相談室には、子どもからお年寄りまで様々な年代や立場の人が相談に訪れており、主に成人を対象とした面接相談である臨床心理面接や子どもを対象とするプレイセラピーを中心に、年間約 1000 件の相談面接を実施しています。

##### ■ 臨床心理学的地域支援

心理教育相談室担当の本研究科教員は様々な領域において地域貢献・社会貢献活動を行っています。地域の学校におけるスクールカウンセリング、地方自治体や福祉法人の研修会における講師、地域住民を対象とした巡回支援等に取り組んでいます。

### サイエンスショップ

詳細は、<http://www.h.kobe-u.ac.jp/ja/scishop>

サイエンスショップは、地域社会の市民が科学技術をより身近に感じ、「科学」という営みを楽しむ文化をひろげてゆくことを目指し、市民と専門家 (科学者、技術者など) の対話と協働の場づくり、市民の様々な科学活動への支援、地域の学校や社会における科学教育に対する支援など実践的な活動に取り組んでいます。



活動例

■ 社会における市民の科学活動支援

サイエンスカフェは、街のカフェなどで、科学者等の専門家と市民が科学・技術などに関する話題について語るイベントです。「サイエンスカフェ神戸」を開催するほか、兵庫県内を中心に各地で市民によるサイエンスカフェの企画・開催を支援しています。

教育連携推進室

詳細は、<http://www.h.kobe-u.ac.jp/ja/coedu>

近年、大学に対して期待する声が高まっている、初等中等教育との連携に係る社会貢献へ要望と、本研究科に長年にわたり蓄積された学問的成果を踏まえ、教育連携推進室は、高等学校をはじめ小学校、中学校、特別支援学校、教育委員会等と協力し、高大連携事業の推進や、初等中等教育に対する支援及び学校教育・社会教育における連携事業を行っています。



活動例

■ 参画型実践研究を基盤とする高度教員養成プログラム

知識基盤社会をリードできる高度な能力を備えた教員の養成は極めて重要な課題であり、その解決に資するため、附属校園等を活用したアクションリサーチによる実証的研究を通して、修士課程レベルにおける高度な教員養成を目指します。

アクティブエイジング研究センター

詳細は、<http://www.h.kobe-u.ac.jp/ja/kaarb>

人口の高齢化は解決すべき重要な社会的課題であり、世界保健機関(WHO)が掲げる「アクティブエイジング(活力ある高齢化)」はこの課題解決に向けた指針として注目されています。本センターは、研究科に蓄積された研究成果を踏まえ、この分野における先端的研究の創発とその成果の社会的還元を通じ、高齢化に係る課題解決に資することを目的とし、この研究のアジアのHubを目指しています。



活動例

- ・ 鶴甲いきいきまちづくり-アクティブエイジングを目指して
- ・ 住民ネットワーク形成の客観的検証方法の確立
- ・ 男女の違いや個人差を考慮した健康増進支援プロジェクト
- ・ 高齢者の身体システム機能維持・向上への学際的プロジェクト
- ・ 都市住居高齢者の日常活動の国際比較
- ・ 超高齢社会を見据えた持続可能なごみ処理施策の提案
- ・ 関西ワールドマスターズゲームズ2021レガシー創造支援研究
- ・ 高齢期の意思決定バイアスの解明と自律に向けた生涯学習プログラムの開発
- ・ マスターズ甲子園によるアクティブエイジング活性化の検証
- ・ サードエイジのサクセスフル・エイジング・モデル構築プロジェクト
- ・ 生涯学習・多世代交流プロジェクト
- ・ 超高齢社会における複数住宅所有の実態と役割
- ・ 活動的な生活習慣と健康増進プロジェクト
- ・ アクティブライフ評価と健康寿命の延伸・認知症予防対策
- ・ 更年期女性の身体的変化と心理的適応
- ・ 高齢者の住まい方とエネルギー消費との関係性に関する調査
- ・ 超高齢・持ち家社会における住宅相続の増大と階層化

## □ 発達支援インスティテュート シンポジウム

### 「持続可能な社会における人間のライフスタイル」

2015年国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された「持続可能な開発目標(SDGs)」は、政府、企業、教育・研究機関、市民組織など幅広い関係者に認知が広がり、それに向けた様々な取組が展開されつつあります。発達支援インスティテュートでは、「持続可能な社会における人間のライフスタイル」をテーマとしたシンポジウムを開催し、同インスティテュートの諸活動を契機とした、企業、自治体、市民など地域との連携を含めたSDGsへの寄与、持続可能な社会づくりの可能性について活発な議論を行いました。



# 国際学術交流

人間発達環境学研究科は、世界各国の教育・研究機関と積極的に交流を行っています。海外から多くの研究者が本研究科を訪問し、学生も主体的に学術交流に関わり、研究集会を開催しています。また、学生は、神戸大学や本研究科が協定を結んだ海外の教育・研究機関等に派遣され、現地の学生とともに、調査研究、研修等を積極的に行っています。さらに、講義や演習の一環として、いくつかの具体的なテーマを掲げ、海外の学生、研究者、実践家等と問題意識を共有しながら調査研究や学術交流を進めるスタディツアーにも積極的に取り組んでいます。

## 国際シンポジウム

1年を通して、国内外から多くの研究者を招き、様々な学術交流を行っています。



### Global Workshop Sustainable Development Goals (SDGs) and University Education: Challenge of Global Interaction in A New Era

オーガナイザー：太田 和宏 教授（途上国政治経済）

インドネシア、フィリピン、タイ、マレーシア、中国、アイルランドの大学から研究者を招き、ワークショップ「SDGsと大学教育—グローバル交流の可能性」を開催しました。本学におけるSDGs戦略やグローバル教育、ESDの実践例を紹介するとともに、各大学における国際戦略やグローバル教育等の各種実践について情報交換を行いました。相互に教訓や課題を検討、共有し、今後のさらなる交流に向けた貴重な機会となりました。



### 国際セミナー Everyday activities and the health of the urban elderly: Comparison between Japan and Korea

オーガナイザー：片桐 恵子 教授（社会心理学、社会老年学）

本研究科アクティブエイジング研究センターとソウル国立大学は、日本学術振興会と韓国研究助成財団の助成金を得て、二国間交流事業共同セミナー『都市居住高齢者の日常活動と健康：日本と韓国の国際比較研究』を開催しました。韓国と日本の大学院生や若手研究者による研究発表の部と、日本、韓国、フランスの有名な研究者による最先端のエイジング研究の発表が行われました。英語による活発な議論や国際交流の機会となりました。

## 学術Weeks

本研究科の国際交流推進の一環として学術Weeksを設置し、海外から多くの研究者を招聘し、研究集会等の学術交流を行っています。教員のみならず、大学院生や学部生も積極的に参加し、領域横断的な学術交流の場となっています。学術Weeksの主な目的は、多くの大学院生が、様々な分野の国際交流を通して、自分の研究を見つめ直し、研究会の企画、運営、発表などの多くのスキルを修得することです。学際的・横断的研究を積極的に進める本研究科において、大学院生が多様な研究領域に接する有意義な機会となっています。



### ドイツと日本における学びのデザインと教師教育

オーガナイザー：渡邊 隆信 教授（西洋教育史、教育哲学）

急速に変化する現代社会のなかで、子どもの学びの様相もまた変化しています。子どもの学びの変化は、それに対応する教師教育の改革を要請します。本シンポジウムでは、ドレスデン工科大学から12人の研究者を招聘し、ドイツと日本における教科教育と教師教育の改善について相互に議論を行いました。2日間にわたるシンポジウムを通して、参加院生は、教師教育改革、科学教育、算数教育、公民教育、教育実習の5テーマについて、両国の共通の課題とそれぞれの対応方策について多面的な理解を得ることができました。

## スタディツアー

実践的解決能力の育成を目的として、アクションリサーチ型実践教育（スタディツアー、フィールドワーク学修等）を実施しています。



### アジア・パシフィックマスターズ大会調査

長ヶ原 誠 教授（生涯スポーツ振興論、レジャー・スポーツ老年学）

30歳以上であれば誰もが出場可能なアジア初となるマスターズスポーツ大会がマレーシア・ペナン市で開催され、本研究科3名の院生が現地調査を実施しました。本大会で開催された全18競技会場と大会本部においてインタビュー調査を行い、競技と観光プログラムに関わるマネジメント情報を集約・分析すると共に、2021年に関西で開催されるワールドマスターズゲームズ大会への参加意向調査を64ヶ国の選手を対象に実施し、国際的スポーツプロモーションに関する調査研究方法について体験学習しました。

## 海外協定校との学術交流

神戸大学または研究科は、海外の大学等の教育研究機関との間で学術交流協定を締結し、学術及び教育上の様々な分野において、研究者や学生の交流をはじめとして教育・研究に関する交流活動を行っています。

\* 交換留学制度のある協定校

国名/地域	大学名			
シンガポール	Singapore	南洋理工大學		Nanyang Technological University*
タイ	Thailand	カセサート大学		Kasetsart University*
大韓民国	Korea	ナザレ大学	国立済州大校	Korea Nazarene University* Jeju National University*
		釜山国立大学	中央大校	Pusan National University* Chung-Ang University*
		ソウル国立大学		Seoul National University*
中華人民共和国	China	北京師範大学	清華大学	Beijing Normal University* Tsinghua University*
		華東師範大学	武漢大学	East China Normal University* Wuhan University*
		南京大校	浙江大校	Nanjing University* Zhejiang University
		上海交通大校	梨花女子大校	Shanghai Jiao Tong University* Ewha Womans University
		香港大校		The University of Hong Kong*
台湾	Taiwan	国立台湾大校		National Taiwan University*
		国立政治大校		National Chengchi University*
インドネシア	Indonesia	スマランPGRI大校		Universitas PGRI Semarang
フィリピン	Philippines	サンベダ大校		San Beda College*
		アテネオ・デ・マニラ大校		Ateneo de Manila University*
モンゴル	Mongolia	モンゴル国立大校		National University of Mongolia*
バングラデシュ	Bangladesh	IUBAT		International University of Business Agriculture and Technology Dhaka
オーストラリア	Australia	クイーンズランド大校		The University of Queensland*
		西オーストラリア大校		The University of Western Australia*
		ウーロンゴン大校		University of Wollongong*
		ニューサウスウェールズ大校		The University of New South Wales*
米国	USA	ピッツバーグ大校		University of Pittsburgh*
		ジョージア工科大校		Georgia Institute of Technology*
カナダ	Canada	オタワ大校		University of Ottawa*
		ウェスタンオンタリオ大校		The University of Western Ontario
イタリア	Italy	ヴェネツィア大校		Ca' Foscari University of Venice*
		ボローニャ大校		University of Bologna*
英国	United Kingdom	ロンドン大校アジア・アフリカ研究学院 (SOAS)		School of Oriental and African Studies, University of London*
		ロンドン大校		University College London
オーストリア	Austria	FHヨアネウム応用科学大校		FH Joannrum University*
		グラーツ大校		University of Graz*
オランダ	Netherlands	ライデン大校		Leiden University*
スイス	Switzerland	バーゼル大校		University of Basel*
スペイン	Spain	バルセロナ大校		University of Barcelona*
スロバキア	Slovakia	コメニウス大校		Comenius University
チェコ	Czech	カレル大校		Charles University*
ノルウェー	Norway	オスロ・アーケシュフース大校		Oslo Akershus University
ドイツ	Germany	キール大校	ハンブルク大校	Kiel University* Universitat Hamburg*
		トリア大校	ミュンヘン工科大校	Trier University* Technical University of Munich*
		ドレスデン工科大校	ダルムシュタット工科大校	Technical University of Dresden* Technische Universität Darmstadt*
ハンガリー	Hungary	エトヴェシュ・ロランド大校		Eotvos Lorand University*
フランス	France	リヨン高等師範大校		Ecole Normale Supérieure de Lyon*
		リール第3大校		Université Lille 3*
		パリ第2 (パンテオン・アサス) 大校		Université LParis 2 Panthéon-Assas
		パリ・ディドロ (パリ第7) 大校		Université Paris Diderot - Paris 7*
		パリ・ナンテール大校		Université de Paris Nanterre*
ブルガリア	Bulgaria	ソフィア大校		Sofia University St. Kliment Ohridski*
ベルギー	Belgium	ブリュッセル自由大校		Vrije Universiteit Brussel*
ポーランド	Poland	ヤゲウォ大校		Jagiellonian University in Krakow*
		ニコラウス・コペルニクス大校		Nicolaus Copernicus University in Toruń*
リトアニア	Lithuania	ヴィリニウス・ゲディミナス工科大校		Vilnius Gediminas Technical University*
ロシア	Russia	サンクトペテルブルク大校		Saint-Petersburg State University*



神戸大学大学院 人間発達環境学研究科

〒657-8501 兵庫県灘区鶴甲3-11 TEL 078-803-7924 FAX 078-803-7929

<http://www.h.kobe-u.ac.jp>

人間発達環境学研究科

検索

2019年6月発行